

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18330033
 研究課題名（和文） 帝国の遺産と東アジア共同体

研究課題名（英文） Legacies of the Empire and the possibility of the East Asian Community

研究代表者

梅森 直之(UMEMORI, Naoyuki)
 早稲田大学・政治経済学術院・教授
 研究者番号：80213502

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係

キーワード：グローバル・イシュー、社会運動、東アジア史、国際協力論

1. 研究計画の概要

東アジア共同体の構築など、現在アジアに寄せられる期待は大きい。しかし一方で、東アジアについて語る場が、日本・中国・韓国・台湾のナショナル・インタレストの衝突の場となり、議論のための共通の土俵を設定することすら困難になることも決してまれではない。本研究では、日本・中国・韓国・台湾の過去と現在に大きな影響を受けた「帝国」という問題を、東アジアの研究者共同の研究領域として設定し、そこでえられた共同の知見に基づき、新しい東アジア共同体構想を提言することをその目的とする。具体的には、

- (1) 国際的なネットワークを通じた共同研究を通じてアジア共通の歴史認識の構築を進めるとともに、
- (2) 「草の根からのアジア」の構築を目指し、日本とアジアとの社会運動を通じた連携を明らかにする基礎資料の収集ならびに整備を進める。

2. 研究の進捗状況

各研究者が個別テーマについて研究を進めるほか、本研究にかかわる基礎資料の収集・整理ならびに国際共同研究推進体制の構築を、共同プロジェクトとして推進した。

- (1) アーカイブの整備：日本の社会運動とアジアとの関連を体系的に明らかにするプロジェクトの一環として、篠田徹を中心に、早稲田大学に所蔵されていた未整理の旧社会党関係文書のアーカイブ化に着手した。80箱ほどのうち、現在までに各種通達類・活動報告・調査資料など党

本部関係の資料、アジア社会党会議・国際社会主義運動関連資料を含む外国語資料の整理が終了した。

- (2) 日韓共同歴史シンポジウムの開催：日本とアジア諸国の歴史認識について共通理解を深め、その問題点を討議することを目的として、韓国成均館大学をパートナーとし、李成市を中心に、2007年と2008年に日韓歴史シンポジウムを開催した。第一回目はソウルで、第二回は早稲田大学で、それぞれ「東アジア史研究の方法論の拡大」、「近代東アジアに置ける他者認識と他者構築」という共通テーマのもと報告と議論を行った。
- (3) ヨーロッパ比較植民地研究との連携：2007年11月にパリで開催された国際カンファレンス、「植民地と抑圧」に、本研究グループから坪井善明と梅森直之が参加し、研究報告を行うかたわら、ヨーロッパの植民地研究者との連携を深め、共同比較研究のための基盤作りを行った。
- (4) アメリカのアジア研究との連携：アメリカの著名な日本研究者であるハリー・ハルトゥニアン教授(ニューヨーク大学)を招聘し、早稲田大学において、日本の歴史とアメリカならびにアジアとの関係を考えるシンポジウムを開催した。
- (5) 台湾研究者との連携：台湾中央研究院の歴史関連の複数のプログラムに梅森直之が招聘され、歴史認識をめぐる種々の問題に関して台湾を中心とする研究者と意見交換ならびに共同研究のうち合わせを行った。

3. 現在までの達成度

やや遅れている。国際研究体制のネットワーク構築や、社会運動におけるアジア関連資料の整理は当初の予定通り進捗しているが、

- (1) 国際共同研究体制を通じて積み重ねられた個別的な議論を体系化する作業、ならびに
- (2) これまで収集しえた新しい基礎資料の公開や、それに基づく研究発表

が、今後の重要な課題として残されている。

4. 今後の研究の推進方策 最終年度にあたる本年は、

- (1) アジアにおける植民地をテーマとした共同論文集の発行、
- (2) 旧社会党文書を中心としたアジアと日本の社会運動のつながりを明らかにしうる一次資料目録の公開とその研究成果の発表、

に向けた集中的取り組みを行う。

5. 代表的な研究成果 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

篠田徹「なぜ日本社会主義同盟は大事か」太平洋を越えた運動史への想い」『早稲田大学社会科学総合研究』第八巻第三号、2008年、1-17、査読なし。

梅森直之「詩が滅びるとき：石川啄木における「時間の政治」をめぐる」『初期社会主義研究』20号、2008年、120-144、査読なし。

梅森直之「日本社会党関係資料から戦後をながめる--浮かび上がる党の姿」『改革者』570号、2008年、48-51、査読なし。

梅森直之「書評 昆野伸幸著『近代日本の国体論』 長谷川亮一著『「皇国史観」という問題』」『日本思想史学』40号、2008年、186-195、査読なし。

李成市「なぜ今東アジアなのか」『日本空間』創刊号、国民大学校日本学研究所、ソウル、2007年5月、p6-27、査読なし。

[学会発表](計3件)

梅森直之「鏡のなかの植民地：戦後日本と比較植民地研究」(国際ワークショップ、台湾中央研究院、2008年9月)

Naoyuki Umemori, "Some

characteristics of Japanese colonial government," Universite Denis Diderot / Paris 7, 11/2007.

李成市「東洋史における『東アジア』概念」(東アジア近代史学会第12回研究大会、東京大学駒場キャンパス、2007年6月)

[図書](計1件)

梅森直之(共著)『日本思想史ハンドブック』(新書館、2008年、238頁)

